

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校		1976年4月1日	木村 俊介	〒 450-0002 (住所) 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1770																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人河合塾学園		1978年8月1日	河合 英樹	〒 464-8610 (住所) 名古屋市中村区今池2-1-10 (電話) 052-735-1613																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
商業実務	商業実務専門課程	国際ホテル学科	平成25(2013)年度	-	-																													
学科の目的	ホテル・観光産業で求められる英語を実務・実用レベルまで習得させ、必要とされるビジネス能力、対人サービス能力も踏まえ、国際社会に貢献できるホスピタリティマインドに優れた人材育成を目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	人を感動させ、幸せを与えることができるホスピタリティマインドを身につけることができる。職場体験や企業のインターンシップ参加の機会を創出している。 取得可能検定:実用英語技能検定準1級、2級、準2級 観光英語検定2級 秘書技能検定2級、サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、和食検定 中退率:4%																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,950 単位時間	840 単位時間	630 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
120 人	52 人	6 人	12 %	4 %																														
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>20</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>20</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>20</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>20</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和6年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) (株)ミリアルリゾートホテルズ、ハイアットリージェンシー箱根リゾート&スパ、(株)ホテルオークラ東京、(株)ニュー・オータニ、ホテルインディゴ犬山有楽苑、帝国ホテル 大阪</p>						■卒業者数(C)	20	人	■就職希望者数(D)	20	人	■就職者数(E)	20	人	■地元就職者数(F)	4	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	20	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	20	人																																
■就職希望者数(D)	20	人																																
■就職者数(E)	20	人																																
■地元就職者数(F)	4	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	20	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://gaikokugo.trident.ac.jp/department/dept-hotel/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,950 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,950 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,950 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	120 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総単位数	0 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																	
うち必修単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>6 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>9 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2 人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計		9 人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人																																
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	6 人																																
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																
計		9 人																																

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生への教授については英米語の現場での最新の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施していくことは学校の必須事項である。また同時に、業界が求める人材内容や今後の業界発展を考えたときに必要とされる資質、要件などについての知見を得たうえで、現在及び将来の専門学校教育に取り組んでいくことも重要である。こうしたことを踏まえ、本校では、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月13日現在

名前	所属	任期	種別
室岡 雅幸	株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
今 竜太郎	LEGOLAND Japan 合同会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
大堀 貴弘	株式会社ネクスト・ホスピタリティー研究所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
春山 新悟	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイルド	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
木村 俊介	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
野口 真理子	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 教務チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
川原 純	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 学生チームチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
田村 学	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 国際ホテル学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
高橋 梓	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
林 諒弥	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 常勤講師	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
前畑 勝秀	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校 キャリアセンターチーフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 16:00～17:30

第2回 令和6年2月21日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

人が欲しいのではなく人材が欲しいという企業の方からのご意見をいただき、知識やスキルのみならず、広い視野を持ち臨機応変に対応できる人材育成に注力していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習・演習等の科目においては、各分野で活躍されている講師を招き、ゼミ科目で企業の求める業務水準を現実的に体感させることを目的に設定する。疑似体験的な講義・演習を通じて、各分野の現場で日常使われている技術・知識を習得させる。評価については企業の現実の評価基準を確認しながら、常勤講師と相談のうえを実施していただく。社会人への準備として必要なキャリアデザイン、資格検定についても実績の高い企業と連携をし、有能な人材を社会に送り出す。また、こうした講義・演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゼミ科目については、高度な知識と技術が必要な為、業界ニーズを把握し、各分野で活躍されている企業の講師が担当する。各専攻の最終仕上げの授業と位置づけ、正確かつ最新の業界情報を講義に入れ込む。演習時には、修正・訂正が必要な箇所の指摘、評価を行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	経済産業省から提案された社会人として活躍するための重要な能力のひとつである「社会人基礎力」を理解し、社会人として必要な基本スキルを自主的に身につけさせる。	有限会社畠山企画
ホスピタリティマインドⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン
ホスピタリティマインドⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実際のあるいは架空の企業が抱える問題・課題に対して、グループで解決策を考えて提案する。企画案作成・イベント等企画実施までを産学連携にて実施する。	一般社団法人クールスタイルジャパン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規定に定められている通り、年度の当初にチーフと学科長、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務づけている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に務めている。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「コーチング研修～部下の主体性を引き出すスキルを習得する」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年7月11日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	カスタマーバリュー向上研修～顧客視点からマーケティングを強化する	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年2月22日(土)	対象:	教職員
内容	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		
研修名:	TOEICセミナー	連携企業等:	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
期間:	令和5年9月13日(水)14:00～16:30	対象:	教職員
内容	今、実社会で求められる英語力とは?～多様化する英語ニーズと自分の英語力を知る意義～		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	株式会社AL&AL研究所
期間:	令和5年8月29日(火)9:30～15:00	対象:	新人常勤講師
内容	アクティブラーニング形式の授業スキル向上		
研修名:	『7つの習慣セルフコーチング for College』	連携企業等:	株式会社FCEエデュケーション
期間:	令和5年1月17日(火)9:45～12:55	対象:	教職員
内容	「自分で自分を成長させる自己対話スキル」を身につけられるようになるプログラム体験		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	株式会社ハーモニークリエイション
期間:	令和5年3月6日(月)14:00～16:00	対象:	教職員
内容	「アカハラを主としたハラスメント防止・対策」		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JTBリスクマネジメントセミナー2024 ～事例から学ぶ大学の海外危機管理～	連携企業等:	株式会社JTB
期間:	令和6年9月11日(水)15:00～	対象:	教職員
内容:	ロールプレイングでやる気を引き出すコーチングのスキルを習得		
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	顧客の視点から見た商品やサービスの価値(カスタマーバリュー)の重要性について理解する		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第1回FD研修	連携企業等:	専門学校事業企画部
期間:	令和6年8月27日(火)10:30～15:30	対象:	新人常勤講師
内容:	対話的で深い学びの実現～専門学校AL形式中心の授業スキル向上の習得		
研修名:	対人関係構築研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和6年8月26日(火)10:00～16:00	対象:	教職員
内容:	円滑なコミュニケーションの為のスキルを習得する		
研修名:	第2回FD研修	連携企業等:	一般社団法人日本著作権教育研究会
期間:	令和7年2月27日(木)10:00～12:00	対象:	教職員
内容:	教育における著作権に関して		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等の取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行う。自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施・公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価
(2) 学校運営	運営方針・事業計画、学校組織と意思決定の概要、組織の活性化、業務の効率化
(3) 教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム、カリキュラム編成体制、各学科のカリキュラム編成、カリキュラムや教育方法の工夫・開発、企業・団体等との連携、インターンシップ、専門教育における実習、キャリア教育、授業評価、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、現在の講師陣の状況、講師の採用基準、講師の専門性把握および教育スキルの向上
(4) 学修成果	就職について、資格取得の目標と取得状況について
(5) 学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制・就職活動支援、学生相談室、担任制、奨学金制度・学費分納、学生の健康管理、クラブ活動、卒業生支援
(6) 教育環境	学校施設・設備の整備状況、インターンシップ、海外研修、防火・防災体制、保健衛生管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集の考え方、入学選考
(8) 財務	予算、監査・財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令順守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 社会貢献・地域貢献	企業・団体・地域との連携・交流
(11) 国際交流	留学生の受け入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

スマホは使えるがPCの使い方をあまり知らない学生についてどのように学校は対応しているかとの問題定義があり、入学後の集中授業や課題提出などをPCで行なわせるなど、日常的にPCを使わせるように取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山澤 隆士	イッティージャパン株式会社 課長代理	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
鶴田 修一	愛知中小企業家同友会 株式会社鶴田工業所代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
坂本 喜樹	瑞穂通商店街振興組合 坂本時計店店長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域
上福元 諭	ソニー生命保険株式会社 ライフプランナー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校 教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校 教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2)各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3)教職員	教職員組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6)学生の生活支援	学生生活相談
(7)学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8)学校の財務	河合塾学園事業報告
(9)学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>

公表時期: 2024年8月31日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			ベーシックプログラム	入学後、専門科目の履修に先駆けて常識やマナーを学び、社会人としての土台をつくる。また、入学時に在学中の達成目標と将来への志望を明確にし、学習の全容を見える化して担任と相互に理解し、納得して学習に入る道を作る。	1前	30	1	○			○	○			
2	○			社会人基礎力&プレゼン表現Ⅰ・Ⅱ	自己管理、時間管理、自立、チームワーク、工程管理、コミュニケーション力、柔軟性、創造性、論理的思考力、批判的思考力など、さまざまな状況のもとで適応できるスキル、社会人に必要でかつ専門的履修に欠かせない基本知識を習得する。ビジネスに関する基礎的な知識の理解、社会の一員としての心構えや考え方、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力や目指す業界についての基礎的な知識を身につける。	1通	60	2				○	○		○ ○	
3	○			業界研究Ⅰ・Ⅱ	業界での第一線で働いている方だけでなく、身近な先輩などの講演を多数実施し、仕事の幅を広げ、各自の仕事のイメージを掴みやすくする。また、学校を出てインターンシップやボランティアなど外部との接触を嫌がらず、自主的に行動できる情報を知る。	1通	60	2	○			○	○			
4	○			就職研究Ⅰ・Ⅱ	目指す職業に就くためには、就職活動を避けて通ることはできない。就職活動を順調にスタートさせ、自信をもって就職試験に臨むことができるようになることを狙いとする。	1通	60	2	○			○	○	○		
5	○			キャリアサポート	自らの目標達成に向けたプランニングの確認や修正作業を、面談を中心に進め、自主的に自分の描くゴールを目指す。	3後	30	1	○			○	○			
6	○			就職試験対策Ⅰ	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○	
7	○			就職試験対策Ⅱ	就職試験における筆記試験は面接試験の前段階として行われることが多い。この筆記試験をクリアできるよう、前期は主に国語、社会を中心とした一般常識、SPI試験対策を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○	

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
8	○		ホスピタリティマインドⅠ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・前期	30	1	○		△	○			○	○
9	○		ホスピタリティマインドⅡ	サービスエンターテイナーのための自己理解・自己管理を通して、対人サービス業務に従事する人材に求められる基本的なパーソナリティとその表現方法を習得し、自己イメージ・印象管理を行う。	1・後期	30	1	○		△	○			○	○
10	○		サービス接遇検定対策Ⅰ	資格の取得により、知識・技術を習得していることを客観的に証明する。あらゆる業界において必要となるサービス接遇実務について十分な理解と高度な知識、専門的な技能を身につける。出題傾向や過去問題の分析を行い、出題意図を把握できる効果的な対策授業を進め、1年次に準1級以上の取得を目指す。	1・前期	30	1		○		○			○	
11	○		ホテルビジネス実務検定対策	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級の資格取得を目的とする。	1・後期	30	1		○		○			○	
12	○		和食検定対策	2013年に和食が無形文化遺産に登録され、現在世界的に和食が注目されている。和食の初歩的な知識を学ぶことで和の食文化への興味関心を高め、国際交流に役立てる。	3・前期	30	1	○			○		○		
13	○		サービス接遇1級対策	サービス接遇の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接遇に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	3・後期	30	1			○	○			○	
14	○		レストランサービス技能検定対策	レストランサービス技能検定・学科試験問題の解説及び解答方法 過去問題を中心に模擬試験を行い、学科試験問題の内容の理解を深める。	3・前期	60	2		○		○		○		
15	○		レストランサービス	レストランスタッフの役割と組織を理解する。サービスの心得をを机上と実技をもってレストランサービスの基本を習得する。	1・前期	60	2			○	○		○		

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
16	○		料飲基礎知識	ホテルの料飲部門で提供される料理、飲料に関する基本知識を習得する。料理は西洋料理（フランス）を中心に学び、日本、中国、イタリア料理と他世界の料理の特徴などの概要を押さえる。飲料はアルコール飲料全般について学ぶとともにサービスの基本技能も習得する。	1・前期	60	2	○		△	○		○		
17	○		宿泊サービス実務Ⅰ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務（ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ）に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	1・前期	30	1	○		△	○			○	
18	○		宿泊サービス実務Ⅱ	ホテルの宿泊部門の概要及びハウスキーピング業務とフロントサービス業務（ドアスタッフ、ベルスタッフ、クローク、コンシェルジュ）に関する実務知識とサービス技能を習得し、宿泊接客サービスの基本動作を身につける。	2・後期	30	1	○		△	○			○	
19	○		マーケティング基礎	マーケティングとは何か？新商品や新サービスを作り出す仕組みを一般企業とホテル・サービス業と比較してマーケティングの基礎が理解できるようにする。また、ホテルやブライダルスタッフとして押さえておくべきマーケティングの用語や意味を理解する。	1・後期	30	1	○			○			○	
20	○		ワイン&カクテル基礎	ワインとカクテルの基礎知識、サービス実技を座学と実務を中心に習得する。実習室で実際にホテルで扱う備品を利用して備品に触れながら学ぶ。またその用途を理解し、使えるようになるまでにする。アルコールについての基礎を学びお酒のマナーが実用レベルで使えるようにする。	3・前期	30	1			○	○			○	
21	○		バンケット実務	ホテルでの婚礼・宴会の概要及びホテル宴会業務に関する実務知識とサービス技能を、実際に宴を企画して発表出来るレベルまでに向上させる。	3・前期	60	2			○	○			○	
22	○		サービス心理学Ⅰ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○	

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
23	○			サービス心理学Ⅱ	ホテル・ブライダル業界では常にお客様の気持ちを汲み取ることで、先を読んだサービス、満足度の高い商品の提案、心に寄り添ったおもてなしを提供することができる。この科目ではお客様の心理状態を考察し、最良の状況判断をするための基本的な知識を習得する。	3・後期	30	1	○			○		○		
24	○			料飲応用知識	料飲業務に携わる者として、食品を扱うことは人の命や健康に関わる業務であると認識し、食品衛生・アレルギー・栄養学などの基本知識を習得する。また、レストランの重要要素であるメニューの基本構成や形式などを、日本の「和食」をはじめ世界の食文化とともに学び、多面的な視点と深い洞察力を養う。	3・前期	60	2	○			○			○	
25	○			公衆・食品衛生	食品などを扱うホテルやサービス業会は感染症や食中毒は致命的になる。このような災害を避けるためには、公衆衛生や食品衛生を理解、把握し、お客様にご迷惑をかけないようにすることが、大事である。食品をはじめとするあらゆるものの衛生面に則ってホテル・サービス業を考える。	3・後期	30	1	○			○			○	
26	○			ホテル・ブライダルマネジメント	ホテル業界やブライダル業界で求められるマネジメントの考え方や知識について学ぶ。	3・後期	30	1	○			○			○	
27	○			マナープロトコール	日本人として社会人として必須のマナーやプロトコール（国際儀礼）に関わる知識を学び、国際的なマナーやルールに基づいて的確な対応ができる力を養う。	3・後期	30	1	○			○			○	
28	○			卒業発表	2年ないし3年間の学科習得の成果を、ホテルにおける様々な形式を用いて発表する。内容は別途発表する。	3・後期	60	2			○	○		○		
29	○			接客英語Ⅰ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・前期	30	1	○			○			○	
30	○			接客英語Ⅱ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	1・後期	30	1	○			○			○	

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択 必修	自由 選択													
31	○		接客英語Ⅲ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・前期	30	1	○			○			○	
32	○		接客英語Ⅳ	日常生活において英語でコミュニケーションできる能力を習得する。さらに、サービス業に従事する者が、接客の場で状況に応じた表現を正しく使える能力へと発展させ、「話す能力」の育成を中心においた授業を行う。	3・後期	30	1	○			○			○	
33	○		TOEIC対策Ⅰ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・前期	30	1	○			○			○	
34	○		TOEIC対策Ⅱ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	1・後期	30	1	○			○			○	
35	○		TOEIC対策Ⅲ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・前期	30	1	○			○			○	
36	○		TOEIC対策Ⅳ	訪日旅行者の増加により、ホテルでお客様とコミュニケーションを図るには語学力も必須である。本講座では英語の語彙や表現を学び、英語力の基準となるTOEICのスコアアップを目指す。	3・後期	30	1	○			○			○	
37	○		イングリッシュコミュニケーションⅠ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	1・前期	30	1	○			○			○	
38	○		イングリッシュコミュニケーションⅡ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○			○	

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
39	○			イングリッシュコミュニケーションⅢ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・前期	30	1	○			○			○	
40	○			イングリッシュコミュニケーションⅣ	海外のホテルや外資系ホテルではお客様はもちろん、会社組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的、効果的コミュニケーション能力を身につけ、より自己表現や人に伝える力を高めていく。	3・後期	30	1	○			○			○	
41	○			中国語Ⅰ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・前期	30	1	○			○			○	
42	○			中国語Ⅱ	近年ますます増える外国人旅行者に対し、特に需要が大きい「中国語」について、接客業務に必要な基礎的な語学およびその国の文化等を学習する。	3・後期	30	1	○			○			○	
43	○			コンピュータスキルⅠ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・前期	30	1	○			○			○	
44	○			コンピュータスキルⅡ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	1・後期	30	1	○			○			○	
45	○			コンピュータスキルⅢ	日常業務に活かせるコンピュータスキルの習得する。資料、テーマを正確に理解しWord、Excel、PowerPointの技術を習得する。	3・前期	30	1	○			○			○	
46		○		ホテル・旅館概論	ホテル・旅館の基礎を、わかりやすく解説を通して習得する。特に、ホテルの各部門についての概要を理解することを目指す。	1・前期	30	1	○			○			○	
47		○		観光英検対策Ⅰ	旅行やビジネスで来日している外国人への対応や細かな気遣いなどを目的に、一般英会話や業界独自の専門用語、旅行業等観光業に従事するために必要とされる語彙力・表現力を学び、観光英検3級以上の取得を目指す。	1・前期	30	1	○			○			○	
48		○		観光英検対策Ⅱ	旅行やビジネスで来日している外国人への対応や細かな気遣いなどを目的に、一般英会話や業界独自の専門用語、旅行業等観光業に従事するために必要とされる語彙力・表現力を学び、観光英検3級以上の取得を目指す。	1・後期	30	1	○			○			○	

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択 必修	自由 選択													
49	○		サービス接遇 検定対策Ⅱ	サービス接遇の際の言葉遣い、適切な対応の仕方、その他サービス接遇に関する専門知識はサービス業に従事するために必要不可欠である。サービス従事者としての資質、一般知識、専門知識、対人技能、実務技能を身につけ、検定2級以上の取得を目指す。	1・ 後期	30	1		○		○			○	
50	○		フロント実務 Ⅰ	ホテルの宿泊部門のフロントオフィス業務（リゼーション、レセプション、インフォメーション、キャッシャー）に関する実務知識とサービス技能を習得する。	1・ 後期	30	1	○			○			○	
51	○		フロント実務 Ⅱ	フロント実務Ⅰで学んだ内容をベースに、更にホテルのフロントオフィス業務に関する実務知識とサービス技能を深める。フロントスタッフとして求められる非常時対応やコンプレ対応業務についても理解する。	3・ 前期	30	1	○			○			○	
52	○		ホテル・ブ ライダルイ ベントプ ランニン グ	学んできた成果を発表・パフォーマンスする場として、一つのイベントの企画、準備から施行までを行う。	1・ 後期	60	2	△		○	○		○		
53	○		カラーコー ディネー ト (色彩検定)	従来から「感性」だけによるものと見られがちであった「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、誰もが「理論に裏付けられた色彩の実践的活用能力」を身につけることができる。色に関する知識や技能を社会的に評価する色彩検定の合格を目指す。また、空間における創造力、感性を磨く。	1・ 後期	30	1	○			○			○	
54	○		空間コー ディネー ト	テーブルコーディネート基礎知識から応用までを習得し、客層、場所の広さ、テーブルやインテリアのデザイン・配置、照明、季節感などを総合的に考える力を身につける。	1・ 後期	30	1	○			○			○	
55	○		ホテル・ブ ライダルマ ーケ ティ ン グ	ホテル・ブライダル業界の中で勝ち得ていくために、ホテル・ブライダル市場を理解し戦略を立て、企画することは不可欠である。この授業を通じて業界のマーケティング力を培い、集客・販売の仕組みを知り、新規商品企画や施行、業界のトレンドについても学ぶ。	3・ 後期	30	1	○			○			○	
56	○		ビジネス通 信 英 語	ビジネスの場面で必要な英語表現を学び、電話対応やメールのやり取りなど基本的な処理能力を身につける。様々な書式のビジネスレターを読解・作成できる力を養う。	1・ 前期	30	1	○			○			○	

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
57		○		ホテルビジネス英語	ビジネスで使われる丁寧な英語表現や海外のホテルで働くための基礎的なホテル英会話の知識、技術を業務ごとに学習する。	1・前期	30	1	○			○			○
58		○		海外ホテル留学	1ヶ月間、語学学校にて英語力をスキルアップしたのち、2ヶ月間のホテル研修を行い、海外ホテルでの実務経験を身に付ける。	1・後期	##	12			○		○		○
59		○		イングリッシュプレゼンテーション	海外のホテルや外資系ホテルでは、お客様はもちろん会社の組織内においても英語でコミュニケーションを取る場面は必須である。英語での基本的・効果的プレゼンテーション能力を身に付け、より自己表現や人に伝える力を高めることを目的とする。	3・前期	30	1	○			○			○
60		○		テーマパーク研究Ⅰ	日本及び世界のテーマパークの歴史やホテルの現状を学ぶ。それぞれのテーマパークホテルの理念や業務、ゲストサービスを研究しテーマパークホテルの在り方を学ぶ。	1・前期	30	1	○			○			○
61		○		テーマパーク研究Ⅱ	日本及び世界のテーマパークの歴史やホテルの現状を学ぶ。それぞれのテーマパークホテルの理念や業務、ゲストサービスを研究しテーマパークホテルの在り方を学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○
62		○		テーマパークホテル研修	国内テーマパークホテルにおいて夏から秋にかけて焼く3か月間のインターンシップに参加する。現場経験を積むことで即戦力となる力を養うとともに今後の目指す目標を明確にしていく。	1・後期	##	12			○		○		○
63		○		一般教養	3ヶ月のテーマパークホテル研修後に、社会人基礎力&プレゼン表現、業界研究、就職研究を集中的に学ぶ。	1・後期	30	1	○			○			○
64		○		テーマパーク&テーマパークホテルⅠ	1年次に学んだテーマパークホテル研究を元に、国内外のテーマパークホテルの実態や特徴をさらに研究していく。	3・前期	30	1	○			○			○
65		○		テーマパーク&テーマパークホテルⅡ	1年次に学んだテーマパークホテル研究を元に、国内外のテーマパークホテルの実態や特徴をさらに研究していく。	3・後期	30	1	○			○			○

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
66	○		ブライダルアイテム実習	1年前期の応用として、ブライダルにまつわるアイテムの知識について実習を通して学ぶ。実際に作成することで、センスも身に付ける。	1・後期	30	1			○	○			○	
67	○		ブライダルコストチューム	衣裳に関する知識を講義や実習を通して学び、ドレスコーディネーター検定やフォーマルウェア検定の取得を目指す。	1・後期	30	1	○			○			○	
68	○		ブライダル基礎知識	ブライダル業界を目指す者にとって必要な、ブライダルの歴史、挙式や結婚式のスタイル、結納、会場の種類と違い、引出物や引菓子など基本的なブライダルの用語や挙式、披露宴に関する知識について学ぶ。	1・前期	60	2	○			○			○	
69	○		ブライダルコーディネーター技能検定対策	「ブライダルコーディネーター技能検定対策」の合格を目指し、合格に必要な「コミュニケーション能力」「プランニング能力」、「プレゼンテーション能力」「オペレーション能力」を身につける。	3・前期	30	1	○			○			○	
70		○	各種検定対策講座	就職に役立つ検定・資格を在学中に可能な限り取得していくために、「秘書検定」、「ワープロ検定」、「英検」などの主要な検定の対策授業。学科、専攻、コースの枠にとらわれず、各々の知識・教養を高める講座を選択し受講する。講座内容は別途発表する。	1後・2前	所定時間	所定単位	△	○		○			○	
71		○	語学研修	国際的な視野を養い、英語力を実践的に伸ばす、または専門知識を深めるために海外語学研修を実施している。研修の詳細は説明会で発表する。夏期休暇、春期休暇に実施を計画し、期間に応じて所定の単位を認定する。	1前・3前	30	1			○	○			○	
72		○	中期語学留学	長期休暇を利用して、中期(8~10週間)の語学留学プログラムを実施している。希望者から事務局が認定した学生を派遣する。詳細は説明会で発表する。プログラムに参加し、成績認定された学生に所定の単位が与えられる。	1前・3前	所定時間	所定単位			○	○			○	
73		○	自己啓発講座	学生の自己啓発を目的に講座を開講する。講座内容は別途発表する。	1前・3前	所定時間	所定単位	○			○		○		

(商業実務専門課程 国際ホテル学科)																
74	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	企業研修	研修生としてビジネスの現場を経験し、各分野の専門能力を身につけるとともに、社会人としての素地を養う。企業研修を通して実務を体得し、組織の一員として仕事をする意義を学ぶ。所定の時間を満たした実習参加に対して所定の単位が認定される。	1前・3前	30	1			○		○		○	
合計				74 科目				1950 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 1年次34単位、2年次27単位、3年時27単位以上取得して、進級もしくは、卒業判定会議で承認されること。		1学年の学期区分	2
履修方法： 必修（専攻別）は、全ての科目を必修する。 選択必修科目は選択した科目を履修し単位認定とする。 自由選択科目は、進級・卒業必要単位数には加算されない。		1学期の授業期間	15

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。